

草津白根山・本白根山の地質

本白根山は、本白根火砕丘、鏡池火砕丘、鏡池北火砕丘など南西-北東方向に並ぶ火砕丘群で、それぞれの火砕丘基底には溶岩流を伴う（図 1）。山体は発泡の悪い火山弾、火山岩塊からなる成層した凝灰角礫岩からなる（図 2）。これらの火砕丘は直径 300-400m ほどの山頂火口をもつほか、今回の火口列と同じ走向の、東西方向に延びた小火口列が多数認められる（図 3）。

地形、層序などから南西側火砕丘が古く、活動場所が北に移動したと考えられる。活動年代は殺生溶岩流を伴う鏡池火砕丘が 5000~3000 年前（早川・由比, 1989., 濁川ほか, 2016）、振子沢溶岩を伴う鏡池北火砕丘の最終活動が 1500~1200 年前（濁川ほか, 2016）である。

本白根山噴出物は全岩 SiO₂ 量が、57~63wt%程度の輝石安山岩~デイサイトで、一部に角閃石斑晶を伴う。

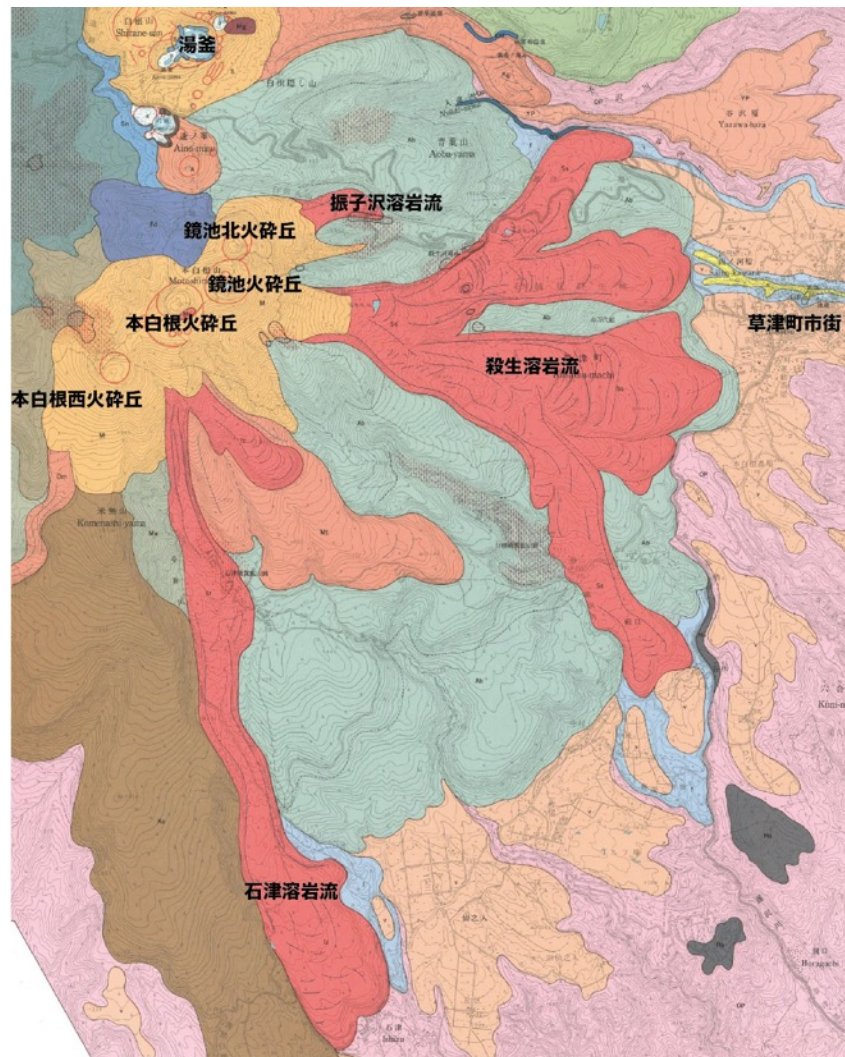


図 1 本白根山火砕丘群と溶岩流分布。（草津白根火山地質図（宇都ほか,1983）を改変）
火砕丘名称は高橋ほか（2010）、濁川（2016）による。



図2 本白根火砕丘を構成する成層凝灰角礫岩礫には冷却節理が認められる。

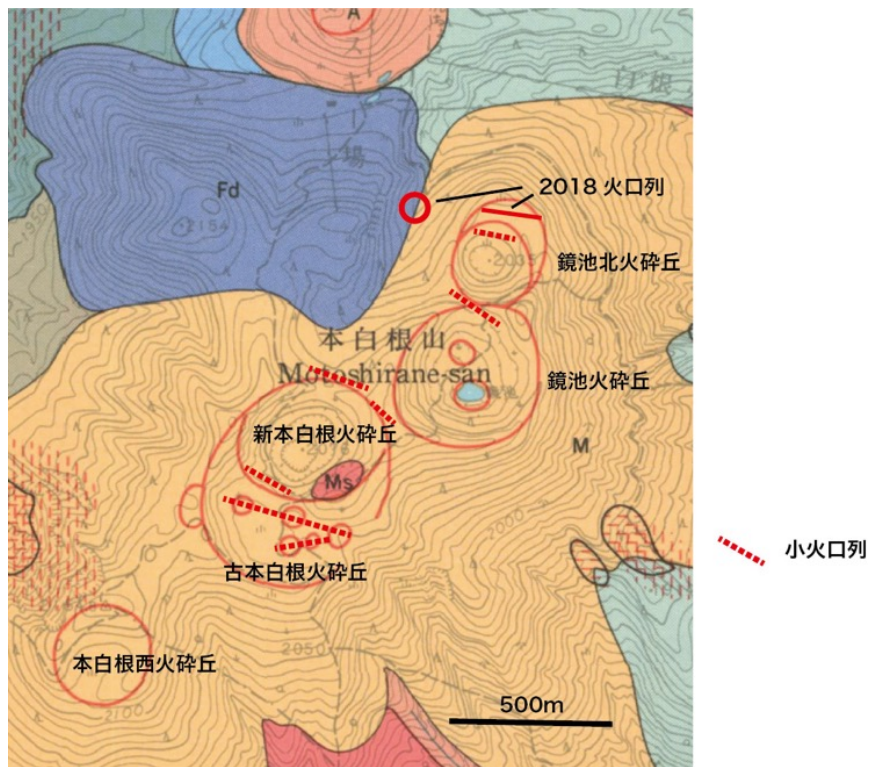


図3 本白根山山頂部

東西性の走向を持つ小火口列が発達する。今回の新火口列はこれらの火口列と同じ走向を持つ。

引用文献

- 早川・由比 (1989) 草津白根火山の噴火史, 第四紀研究, 28, 1-17.
- 瀧川ほか (2016) 草津白根火山本白根火砕丘群の完新世の噴火履歴, 日本地球惑星科学連合 2016 年大会予稿, SVC48-11.
- 高橋ほか (2010) 草津白根火山噴出物の全岩主化学組成 - 分析データ 306 個の総括 -, 日大紀要, 45, 205-254.
- 宇都ほか (1983) 草津白根火山地質図, 火山地質図, no.3, 地質調査所.